

令和 7 年度総会研修会アンケート

開催日 令和 7 年 4 月 25 日（金）14：00～16：30

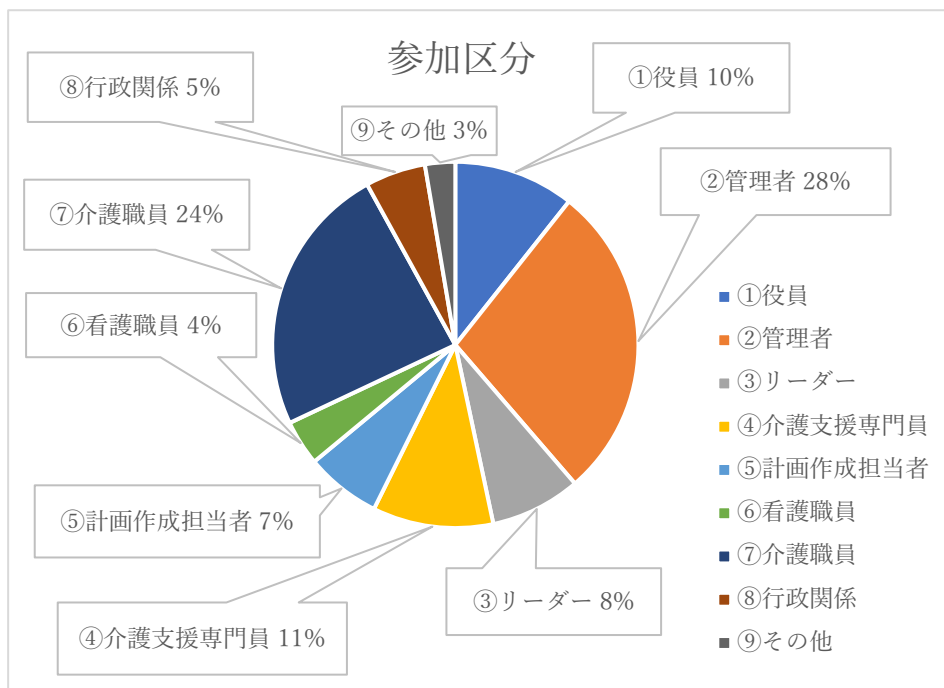
会 場 テクノプラザ愛媛 テクノホール

参加者 会場 54 名（役員含む） Zoom 39 名

アンケート回収率 70%

Q1，参加区分を教えてください。（複数回答あり）

- ① 役員・・・・・・・・ 8
- ② 管理者・・・・・・・・21
- ③ リーダー・・・・・・・・ 6
- ④ 介護支援専門員・ 8
- ⑤ 計画作成担当者・ 5
- ⑥ 看護職員・・・・・・・・ 3
- ⑦ 介護職員・・・・・・・・18
- ⑧ 行政関係・・・・・・・・ 4
- ⑨ その他・・・・・・・・ 2

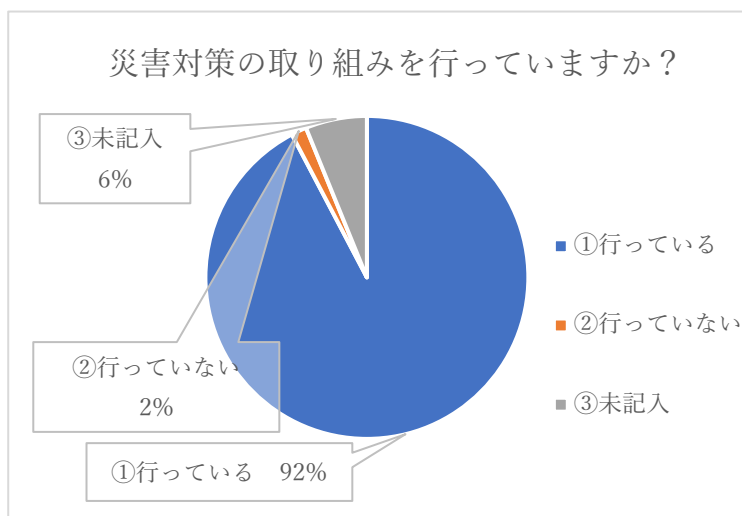


Q2，事業所で災害対策の取り組みを行っていますか？

- ① 行っている・・・・・・・・60
- ② 行っていない・・・・ 1
- ③ 未記入・・・・・・・・ 4

①を選ばれた方、具体的にどんな取り組みを行っているか。

- ・定期的な訓練と研修。
- ・備蓄品の確保、訓練、研修等。
- ・物品の備蓄をそろえようとしている。
- ・避難訓練の実施。備蓄品の準備。緊急連絡。
- ・備蓄品のストック。避難訓練。
- ・水、食料品の備え。
- ・備蓄品の準備、災害時の訓練、防災グッズの見直し。
- ・食料、水、オムツ等の備蓄。
- ・BCP 作成を機に訓練を行っています。又、地域の協力もあり、運営推進会議で併せての訓練も行っています。



- ・年2回の避難訓練をしています。(日中や夜間設定を交互に)
- ・災害時避難訓練(時間測定)、備蓄確認、試食など。
- ・物品の備蓄。水、食料の備蓄。
- ・備蓄品(飲料水、食料品…etc)、防火訓練、避難経路の確認、救急用品、衛生用品などの防災グッズ、BCPの策定、ハザードマップの活用。内服薬についても主治医に頼み、1週間分予備としてキープしている。
- ・まだまだ十分とは言えないが備蓄品の準備をしている。
ラインを使つての職員の安否確認と救援の可否の返答訓練。
避難場所までの経路の確認、要する時間の把握。
- ・所内会で机上訓練、シュミレーション訓練、消防訓練時に確認、ご利用者様向け追加イベントで非常災害対策講話の実施。
- ・3日分の食料、水分の確保、避難訓練(2ヶ月に1回、消防署の協力のもと年1回、防災教室年1回)
- ・個別避難計画の作成をしており、更新も行っている。
BCP作成を行い、年1回見直しをしている。
- ・モバイルバッテリー、備蓄品の準備、缶詰、水、簡易トイレなど。
- ・介護事業所ではありませんが、様々な災害対策の取組みは行っています。備品確保、停電対策、サーバー対策、食料備蓄等。
- ・生活用水の確保(貯水槽、ポリタンク)食品備蓄、医薬品、衛生用品、日用品
- ・BCP策定、研修。
- ・災害が起こった時にどの職員が災害の役割(指揮班、避難誘導班など)を振り分け、どこに避難するかを図に表している。避難訓練を定期的に行っている。
- ・事業継続計画(BCPの策定。避難場所と経路の確認。家具の固定。非常食の確保。非常災害対策の資料。)
- ・BCP災害対策委員会を立ち上げ、研修は年1回(全員参加)訓練は年に2回(全員参加)行っている。
- ・避難指定場所までスタッフみんなで歩いて確認した。
簡易な食事を作ってみたりした。
垂直避難を実施してみた。
- ・避難経路、3階へ上がる、非常食の備え、職員も応援にかけつける。
- ・半年に1回の話し合い。避難訓練。
- ・避難訓練(地震、火災を想定)
- ・災害時避難訓練。
- ・部分的にのみ。
- ・利用者と一緒に避難場所の確認と訓練を行っている。
- ・訓練の実施(BCPも含む)
防災担当者会(法人内部署各1名選出)1回/2月(定期)
備蓄の状況 訓練報告 BCP訓練(できることから) 「117災害ダイヤル」の活用(1・15日)
- ・訓練
- ・備蓄品などの点検。
避難場所への移動時間。
- ・定期的に避難訓練は行っています。
- ・実際に災害があったと想定し、垂直避難を試みたが、思ったより時間がかかった。
- ・消防訓練(年2回)
院内で災害対策委員会の参加。
- ・防災頭巾作成中。ヘルメット購入。

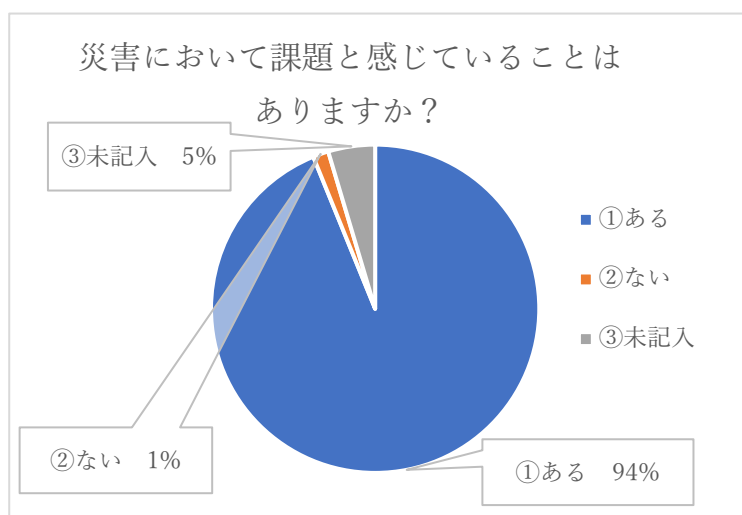
- ・訓練は行っているが、BCP が不十分でやや不安を感じている。
- ・施設での周知。
- ・定期的な訓練。BCP の見直し。備蓄の確認。
- ・避難訓練を行った。
- ・BCP 作成。訓練（最低限）
- ・訓練を定期的実施したり、災害時の水、食料等の定期的な確認をしている。
- ・避難訓練と物資の備蓄。
- ・自主訓練や避難訓練を行っている。
- ・避難訓練、備品の確保点検。
- ・定期的に避難訓練を行っている。
- ・BCP にそって災害時の避難訓練。
- ・備蓄
- ・避難訓練 BCP に基づいた訓練を行っている。
- ・年 2 回災害訓練を行っているが、まだまだ内容がうすい。
- ・運営推進会議で BCP についての話を出している。近隣の方、小学校、保育所を合同で出来る避難訓練を企画し、BCP 作成の見直しになればと計画している。
- ・備蓄品の確認や緊急時のスタッフの安否確認ツール（SNS 使用）について見直し。
- ・早期対策として備蓄はしており、職員間で保管、管理している。
- ・防災グッズの配布、家具の固定など。
- ・ヘルメットや避難用リュックなど全員が備え、年に数回、研修など開催している。
- ・ヘルメット、懐中電灯、ホイッスルなど配布あり。
- ・年 2 回の避難訓練。毎月一回の町内放送によりシェイクアウト訓練。（夜勤者対応、日中勤務者対応）など。
- ・BCP を作り、全職員に配り、読み合わせをしました。

Q3，災害において課題と感じていることはありますか？

- ① ある・・・・・・・・・・61
- ② ない・・・・・・・・・・ 1
- ③ 未記入・・・・・・・・・・ 3

①を選ばれた方、具体的にどんなことに課題を感じているか教えてください。

- ・南海トラフで起こる事態の想定が難しい。
- ・職員がスムーズな対応ができるのか。
- ・情報伝達がスムーズに行えるのか。
- ・食料品の備蓄。
- ・課題の明確化。
- ・解りやすく説明頂いた。
- ・夜間に災害が起こった場合での訓練を行っているが訓練は日中に行っているため、入眠中の入居者を避難させるのは困難ではないかと思う。
- ・災害が大きい場合の職員の招集は本当に可能か？要介護状態の方を安全に守る事への責任の重さ。



- ・夜勤もしているので、夜勤中の災害時はとても不安です。まずは、応援要請をし、居宅（1人）利用者様までの安否確認が早急に行えるかが課題です。
- ・実際に発災した時にすぐ行動に移せるかどうかが課題。
- ・職員全員がBCPに目を通し、個々でどのような役割にあてられているのか？災害時に正確かつ迅速な対応ができるよう、机上訓練や、見直しが課題。
- ・避難場所の確保、ライフラインの対応、緊急時の対応等。
- ・少ない人数で災害がおこった時、対応できるのか。
- ・「周囲を巻き込む」ご家族、近隣住民、町内会等の協力、理解をしてもらうこと。
職員間での周知手段。
- ・夜間に災害が起きた際の対応について、夜勤者が一人の事が大半である為。
- ・実際に避難場所までへの避難を実施したことはない。
スタッフの日々の意識や周知不足。
認知症ご利用者様の避難時の対応。
避難時の避難方法（事業所：車椅子2台、歩行器1台）
- ・実際の時、動けるBCPとはなっていない。津波、高潮リスク高いが、避難がスムーズに出来ない。（ホームの外も被災可能性高く行き場がないと考えられる。）
- ・基本的には水害は「垂直避難」となる。指定避難所までは距離も遠い。実際災害が起こった時、避難先が限定される。川に囲まれ、避難時間もかかる。
- ・住民対象の避難訓練が実施できない。
高齢化にてどの地区も地区内協力者が居ない。（なれない）
- ・生活記録がタブレットなので災害の度合いによりがサービスの提供と共に不安な所ではある。備蓄している食物、水で足りるのか。1Fの人を2Fへ避難させる方法（間に合うのか、など）人員の確保
- ・決断をしないといけない時に、その場の状況を把握してその時の最善!!と思うが「こうだから」と決めておくことで混乱を避けることができるんだな、と思った。
- ・事業所が浸水地域にあり、職場での避難ルートの確認はまだ行っていない。
- ・BCP制度で災害などの対応をしっかりと全職員が学び、何度か訓練を行って把握できるように対応する。
- ・夜勤帯に災害が起きた場合の対応は不安である。職員の確保、ライフラインはどうなっているのか状況把握。
- ・認知症の人に、果たして適切な避難行動ができるのか、理解してもらえるのか。2階のデイルームに避難する事になっているが、水位が上がり2階の高さでは難しい場合どうするのか。同じ職員がいつも居るわけではなく、いざという時本当に職員が集まる事が出来るのか、それは何人くらいなのか。
- ・こういった内容は全く整備できてないのが現状。1から作る必要あり。
- ・スタッフみんなにBCP内容が伝わっていないのでは？BCPを発動するのはいつするか細かく決めていない。
- ・その場の様子を考え動いてみること。
BCPの解りやすい作成。
- ・備蓄品（飲料水、食品）に期限があり、都度確認をおこなうようにはしているが、期限切れになってしまうため、課題を感じている。
- ・認知症の利用者さんは何がおこっているのか理解が出来ない。
- ・想定のみ（南海トラフ）福祉避難所になっているのでどのように対応したらいいのか。予想外の災害対応。
- ・職員の意識の低さに話をしても発展が無い。
- ・安全な場所を見つけて避難することができるかどうか。大災害の時、いつまで続くかわからない避難時の保存食の確保。
- ・訓練の内容も含めてより現実的なものになっているか。BCP計画の見直し、全職員への周知。不安だらけ。

- ・想定外の事態が発生した場合に計画が機能しない。
- ・電気関係、停電になった時の暑さ、寒さの対策が不十分と感じる。
- ・BCP を作るだけで上手に活用できていない。5 階建ての施設なので、どう避難するのか考えないといけない。
- ・地震や土砂災害の際にどこに避難するか？
- ・電気（クーラーに変わるもの）蓄電しかなく。車一台しかない。
- ・想定が不十分である。今後検討が必要。道が水害で通行できなくなった際の迂回路確認も必要である。
- ・BCP はあるが BCP 通りに行えるかどうかわからなかった。
- ・夜勤帯 1 人の時に災害が起こった時のこと。
- ・BCP が職員全員に周知されていない。訓練がきちんと出来ていない。（階段をどうするか等）
- ・避難場所がなかなか遠くて坂の上にあたり、坂の下にあたりとルートが難しい。
- ・災害で孤立しやすい立地ですので、いざという時に人が集まらない。
- ・備品の確保、訓練は行っているものの避難時の利用者の搬送方法。利用者のパニック対応ができるのか。電気水道が止まることを考えると大きな課題。人員の確保。
- ・建物の損害状況により対策も変わってくる。道路の状態（交通）職員が勤務できるか。
- ・施設で行っていたのは防災計画で BCP ではなかった。施設に帰ってみんなで計画を行っていく。
- ・備蓄品について。
- ・事業所に出来る事に限りがあるため、（災害は広範囲に起きるため）食材などの供給は合同でできないか。
- ・備蓄用品の数が足りないので、今後増やしていきたい。
- ・有事の際、職員が出動できるのか？
- ・有事の際にどう動くか具体的なシュミレーションがまだまだ出来ていない。職員も把握できていない。
- ・施設が 3 事業所あり、各事業所統一した BCP を策定しているが、実際に災害が起きた際にどの部署がどのように動くかなど細分化した役割分担の明確化に検討が必要だと感じた。
- ・実際と文面上で差違があると感じた。
- ・地域の要支援高齢者について、いざという時、自分たちも罹災した状況でどこまで支援できるのか、不明。
- ・地域の高齢者への（要支援配慮者）対応、地域性 etc などにより課題が多い。
- ・自宅待機の方がいる。（山間部にお住まいの方）その方への支援物資を届ける。例えばドローンなど、地区ごとに常駐していない。薬は出て発動可能なのか。又、薬剤不足が心配。
- ・夜間の災害時に 1 人での対応は難しい。職員も近くの方が少ないため、連絡がつかなかったりして、施設にかけつける事が出来にくい。まずは自分の家族の安全を確認してから行動をするため、ある程度の時間がかかる。
- ・業務の優先順位等、職員が本当に集まるのか不安です。その日の利用者さんによって、移動に時間がかかったり、対応ができるのかも考えさせられました。

②を選ばれた方、具体的にどんなことに課題を感じているか教えてください。

- ・訓練の回数が少ない。

③未記入の方

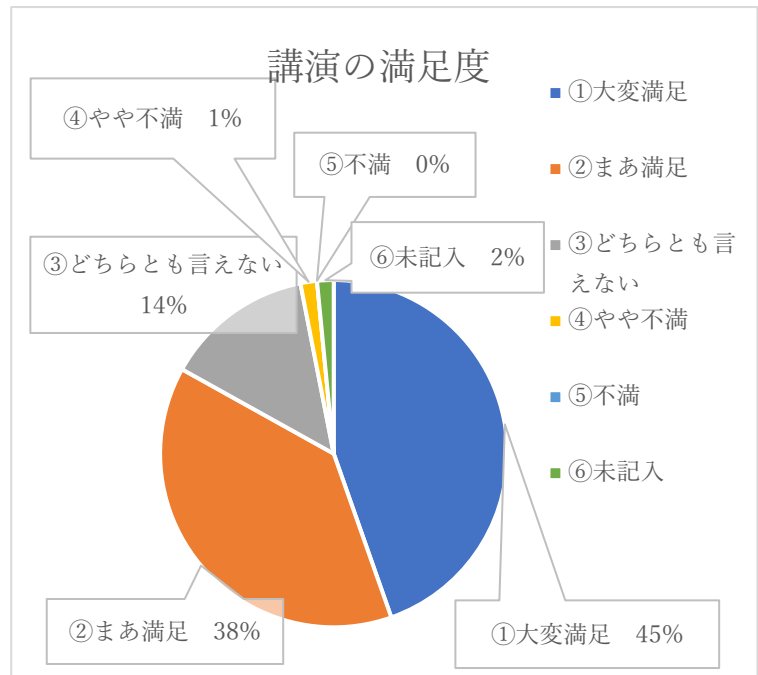
- ・研修などが出来ない。やり方が難しい。
- ・備蓄の確保、確保した物を置く場所。

Q4、今回の重實先生の講演について、どのくらい満足していますか？

- ① 大変満足 29
- ② まあ満足 25
- ③ どちらとも言えない 9
- ④ やや不満 1
- ⑤ 不満 0
- ⑥ 未記入 1

①を選んだ理由

- ・とてもわかりやすく納得できた。
- ・全てが今後に生きる内容だったこと。
- ・BCP の理解が少し深まった。
- ・とてもわかりやすく時間がすぐにたった。
- ・とてもわかりやすい内容でした。
- ・当施設との比較ができた。
- ・どういうふうに周知訓練すれば良いかわかった。
- ・自事業所で BCP に取り組む道があらためて開いたように思いました。
- ・災害時において BCP がどれだけ重要か解りました。
- ・夜勤明けでの参加となり、居眠りしてしまうのでは…と思っていたが、BCP の研修で楽しく、もっと実践し、地域との連携などとれるようにしていきたいと意欲が出た研修になった。
- ・BCP を自分で作成していないため、あまり把握できていなかったので、BCP を見ることができ、話を聞けてとても勉強になりました。もっと理解を深めていきたいと思いました。
- ・まずは見た目。字だけの BCP からわかりやすく図解する。混乱する時こそ冷静に対応すること。
- ・自然災害や感染症発生時における業務継続計画を作っているが、どれだけの職員が理解し、わかっているのか。BCP 策定に完成の非は来ない。周知、定期的の見直し。研修、訓練が必要。記録もしっかりととる。
- ・BCP についてわかりやすかった。
- ・わかりやすいけれども、自施設の BCP が完了していないので。
- ・連携を取って行えている。BCP が見やすくわかりやすい。
- ・出来る所から取り組んでいく。
- ・BCP の取り組みについて分かりやすかったです。
- ・BCP というと難しくて面倒くさいと思っていたけれど、講演を聞いて少し難しく考えすぎていた。少しモチベーションがあがった。
- ・災害に合わせて BCP 発令するが分担を考えることで予測や動きができる事がわかった。
- ・漠然としていたものが少し明確になった。
- ・大変満足。わかりやすかった。
- ・とてもわかりやすかったです。
- ・BCP についての取り組み方、考え方、進め方が具体的にわかり、複雑に思っていた事の方向性はわかった。それでも作成、課題設定見直し作業は大変だなと思った。
- ・自施設に持ち帰り検討できる事項が豊富にあった。
- ・牟佐げんき避難フローを作成しており、独自の避難経路を誰が見てもわかるように作っている。



②を選んだ理由

- ・もう少しゆっくり最後までお話を伺いたかったです。又、こちらも Zoom だった為、少し声が小さく聞き取りづらかったこと、急な対応が必要となり、席を外す事があった事などで少し残念でした。
- ・話はよく理解できた。資料も見やすかった。
- ・BCP とはどういった事なのか、理解困難な所があったが、分かりやすく説明してくださり、ふんわりと理解できることができた。
- ・資料が充実していて、とても参考になりました。
- ・話がわかりやすかった。内容も取り組みやすかった。
- ・認知症高齢者への対応を具体的に知りたかった。
グループワークの時間が短かった。
- ・時間が足りなかった。
- ・分かりやすかった。
- ・特に後半の具体的な取組みが勉強になりました。1 回のワークがあまりにも時間が短すぎたので 2 つぐらいにまとまると良いと感じました。
- ・BCP 策定最低限の要件の内容など、詳しく知り、どう対応していくかよく学べたから。災害時の業務の何を 1 番優先するのか理解できたから。
- ・自施設の BCP で足りない所が気付けた。
- ・満足しました。色々学ばせていただきました。こちらの方の認識がまだまだなので実行していくことが大切と思いました。
- ・研修を聞いて参考になったので施設でも取り入れていこうと思った。
- ・BCP を理解出来た。
- ・BCP への意識が高まった。
- ・BCP についての捉え方を分割する事を学び、今後 BCP について取り組みやすくなった。
- ・BCP 作成時はわけがわからず苦労しましたが、実際の BCP の流れをやっとわかってきました。休憩時間は欲しかったかも。
- ・BCP についてわかりやすかった。
- ・BCP について詳しく、分かりやすく教えて頂き勉強になった。
- ・解りやすく、一つ一つの取組みの意味や重点を講義していただけた。
- ・一般の方でもわかりやすい言葉と話し方で理解ができた。

③を選んだ理由

- ・頭の中では理解出来たつもりですが、実際に BCP の見直しをしていくと分からないことも多くありそうな気がする。
- ・グループワークが大変苦手であるから、苦痛を伴った。
- ・すぐに取り掛かれる課題が理解できた。
- ・Zoom 参加であったが、通信が不安定で音声聞こえにくかった。
グループ討議が十分な話し合いにならない。
- ・短い時間で資料の多さに理解する事が難しかった。
- ・難しかった。
- ・少しペースが早かったように思う。
- ・ノリがよく聞き易かったが、内容は施設向けのように感じた。オンラインでの GW は難しかった。
- ・包括より事業所向けに思う。

④を選んだ理由

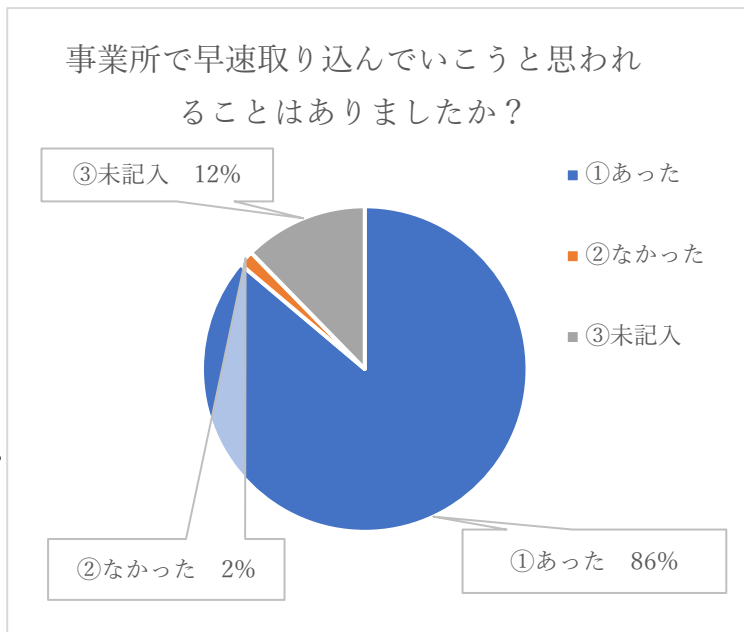
- ・せっかくのいいお話だったが、終わりの方の時間の関係でかけ足になってしまった事。

Q5、今回の重實先生の講演を聞かれ、事業所で早速取り組んでいこうと思われることはありましたか？

- ① あった・・・・56
- ② なかった・・・・1
- ③ 未記入・・・・8

①を選んだ方は、どのようなことに取り組んでいこうと思われましたか。

- ・BCP の計画に参加する事。
- ・設置している家具の見直し。
- ・BCP 見直し。
- ・訓練をしておかないといけないと思いました。
- ・資料など参考にしていこうと思った。
- ・BCP の内容がわかりやすかった。
- ・BCP の内容をわかりやすくする。
- ・見直し。
- ・職員の研修をすぐに行っていこうと思いました。
- ・本人が出来る事まで支援しない。ゆっくり待つ。
言葉のチョイス。相手がイヤな思いをしない言葉を選ぶ。
- ・BCP は1度目を通すくらい程度でしたが、普段から他職員と共有していき、ミーティング等で毎回数分でも話題に取り上げていきたいと思いました。
- ・スタッフでBCPの見直しを分担して行っていきたい。
- ・業務の優先順位を整理する時の業務分類と調整の表がわかりやすく参考にした。
- ・ハザードマップ等、白黒で分かりづらい所をカラーに変える等、職員や他者も見やすく、見たくなるBCPに見直していこうと思った。
- ・BCPは一人ではできないので、職員全員がしっかり把握できるようにみんなで考えて作っていく。
とくに出来ない言い訳(職員が少ない)をするのではなく、どうすればその問題ができるのか何度も何度も訓練をしていけたらと思いました。
- ・机上訓練などに取り組んでみたいと思います。
- ・BCPに分かりやすい写真を入れる。白黒ではなく、カラーで分かりやすくする。
「いつ避難するか」避難するのにどの位時間が必要なのか。必要な人員は何名なのかを訓練時に職員と話し合う時間を作りたいと思う。
運営推進会議時に発信していく。
- ・イラストや図表などを入れ、読んでわかる⇒見て分かるBCPにしたい。
実際に垂直避難など、どのくらい時間がかかるのかシュミレーション訓練。
避難予定先への受け入れ確認や交流。
スタッフ、ご利用者様、さらにご家族様やケアマネージャー様への周知、案内。
- ・BCPを職員間で共有し、皆理解できないといけない。



分かりやすい BCP の必要（ハザードマップ、避難経路添付）

- ・ BCP 書類はあるが「職員、利用者家族への周知」ができていない為、早急に行う。
計画の見直しが必要。
- ・ 想定して冷静に対応。各種連絡先をまとめておく。
- ・ 業務を具体的に分類しておく。
- ・ 沢山想定して対応についてのマニュアルを細かく決めておく。
- ・ いつ発動するのか？避難スイッチを決めておく。
- ・ 周囲を巻き込む
- ・ BCP 関連要素（BCP 策定、周知、研修、訓練、見直し）を理解して、業務を中断しない様に準備し、重要業務を継続するために安全確保等を周知してから、実行しようと思った。その為には周知する方法があるかを考えて行動しようと思った。
- ・ 誰が見ても理解してもらおう工夫。図表、画像、イラスト等、連絡先一覧等は一番目立つ所へ貼りだす。
- ・ 連絡方法（ラインを繋ぎ、皆に連絡が回るように）助け合う、協力体制作りを。
- ・ 取り組みたいことは多くありましたが小さい事から初めていきたい。
- ・ 現実と実際に必要な事を照らし合わせて作成見直しを繰り返す。
- ・ 当事業所は立地がよく、他所の避難はあまり考えてこなかったなので、避難所までの利用者移動方法や時間、個別の注意事項など考えたい。
- ・ 誰が見てもわかる BCP を作成する。スタッフ全員が理解できるようにしたい。
- ・ BCP の周知と他職員にも統一してもらうこと。
- ・ まずは自施設の BCP を職員一人一人にまずは見てもらおうと思った。
- ・ 例えば、自然災害、地震や土砂災害の後の火災や津波などダブルの可能性あり。想定しておく。
認知症の方の行動、想定内だが皆が右や左へ行く可能性、見守りが出来ない。
- ・ ハザードマップを見やすくする。
- ・ 出来るところから取り組んでいく。
- ・ 周知徹底をしていこうと思った。見直しを行っていく。
- ・ 「周囲を巻き込む」のところで運営推進委員会等で BCP の事を理解してもらうように定期的に話していこうと思った。
- ・ 今ある BCP の見直し。
- ・ 異動のためもうさわれませんが、もっとわかりやすい BCP にできたのではないかと反省しました。今の事業所の BCP を見せてもらおうと思いました。
- ・ もう一度 BCP を見直してみる。
- ・ BCP の内容の見直し。
- ・ 見てわかるような BCP を使っていくこと。カラフルに BCP を発令して実際に行動ができるようにしていくこと。まだまだ足りないことが多いので考える、取り組む、やってみる、作りなおす等を繰り返す必要がある。夜勤 1 人では無理。何からするか見直してみる。
- ・ 訓練をしながらもう一度見直しをしていく。
- ・ 今日話を帰ってみんなで話しをしていこうと思う。
- ・ 1 回 BCP を見直していきたい。
- ・ BCP の見直し。
- ・ 自分の施設の対象災害が BCP に反映できていないところがあったので、もう一度見直していきたい。
- ・ 実際の実例を参考に出来ること。行政や地域や家族との協力、見やすい読みやすい BCP の作成の仕方（カラー）持ち出し一覧の工夫等。誰が見ても理解してもらえる工夫を 1 番に早速取り組んでいきたい。

- ・ BCP の見直しや再検討。スタッフの見やすい計画書に取り組む。
- ・ まずは BCP の内容を職員間で周知し、BCP を盛組んだ訓練をする事です。
- ・ 定期的な見直しを「いつ、誰が、どのようにやるのか」具体的に決めておくこと。日頃から自分の役割を意識し、動ける体制づくりをしておくこと。
- ・ 避難場所までの移動を実際に歩いたり、車と時間を測り、利用者さんと一緒に取り組んでみたい。

②を選んだ方

- ・ 行政の立場なので少し意図がずれてたのかなと参加して思いました。

③未記入の方

- ・ BCP の見直し。先生の言われた通り見やすく、見る気になる BCP になる様に少しずつ手直ししたい。
- ・ BCP の見直し。訓練を災害がおこった時、実践できるようなものにしたい。
- ・ 避難するタイミングなど、記載がないので、記載したい。
避難場所の再検討。
- ・ 自施設の BCP を再度確認し、先生が作られた BCP と見比べ、職員皆が理解でき、動ける用な BCP の作成作りに協力できるようにしたいです。

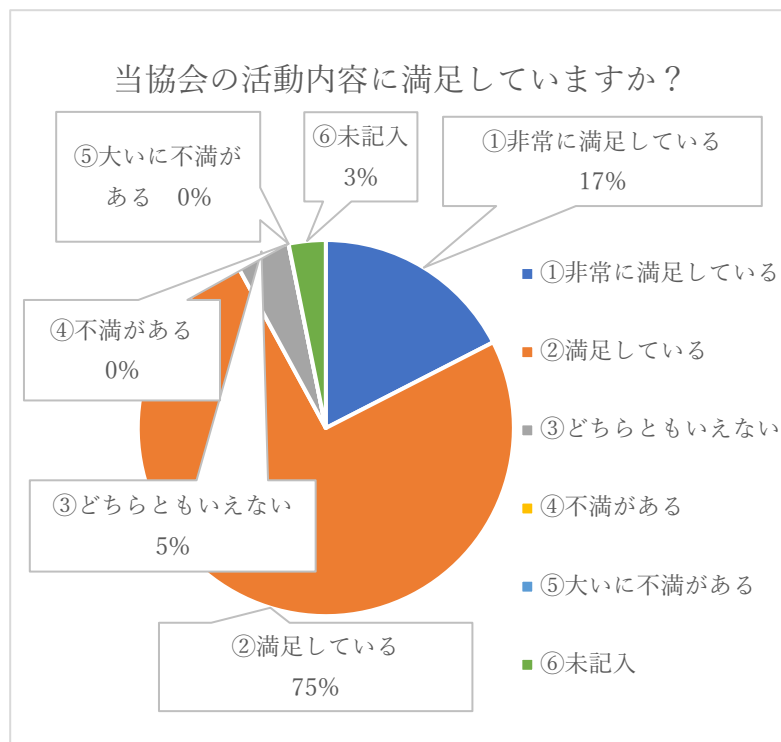
Q6、今回の研修や当協会についてご意見・ご要望がございましたか？

- ・ Zoom が始まってから、研修が受けやすくなりました。アーカイブが残ればいいと希望します。(1W とか)
- ・ 今回のような色々な講師の方のお話を聞いてみたいです。
- ・ 半年に 1 回重實先生の研修を行ってほしい。
- ・ グループワークでの時間がもう少しあれば良かったと思いました。とくに Zoom でのグループワークは少し時間がかかってしまうように思えたので、2 分とかでは話し合いが難しかったです。
- ・ オンラインでの研修があって参加しやすくありがたいと思います。
- ・ BCP はこれで良いの？このままではダメなのではと思っていましたが、どこをどうすれば良いのか分からないままだったので、今回の研修で見直す良い機会になったと思います。
- ・ どの事業所も災害対応に関し、興味関心や危機意識を持ちながらもどう進めればいいのかという所で足踏み状態だったと思います。今回の研修で BCP がより工夫でき、周知、活用できると思います。
- ・ Zoom でのグループワークは困難であると感じた。
- ・ Zoom 研修にて「通信状況の確認」
グループ討議メインにはできないか？
研修資料を簡潔にできないか？(ページ数が多すぎる)
- ・ Zoom のグループワークは時間が管理しにくかった。
- ・ 今回の研修に参加し、災害時の対応、BCP の必要性、勉強しないといけないと思った。グループワークの時間が短く、他の施設の取り組みをもっと知りたかった。
- ・ いつ避難するのか、いつ始めるのか決めないと始まらない。使えるものは全て使う。日頃からの地域との関係が大事だということ。協力や理解をして頂けるよう繋がりを持つようにしたい。
- ・ 今、必要な BCP の研修だった。
- ・ もっと時間が欲しかったです。
- ・ 大変参考になりました。

- ・夜の研修を増やしてほしい。
- ・ずっとモヤモヤしていた BCP だったのですが今回の研修はわかりやすかったです。
- ・とても勉強になった。グループワーク形式にしたのが理解しやすかった。
- ・協会さん大変ですが、頑張ってください。
- ・グループワークでの話し合いの時間が慌ただしかったので、もっと時間の確保をしてもらいたかったです。

Q7，当協会の活動内容に満足していますか？

- ① 非常に満足している・・・11
- ② 満足している・・・47
- ③ どちらともいえない・・・3
- ④ 不満がある・・・0
- ⑤ 大いに不満がある・・・0
- ⑥ 未記入・・・2



①を選んだ方

- ・横のつながりができる。
- ・問題なし。
- ・予算がない中、お疲れ様です。
- ・今年度より 18：30～の研修が多い為、受講しやすい。
- ・難しい内容でも良く解りやすく話して頂き、忙しい日々の中でこの研修の時間は真摯に向き合える貴重な時間で色々学べて有難いです。

②を選んだ方

- ・動画研修はありがたい。(研修に参加したくてもシフトの都合で行けない事があるため)
- ・主に研修で利用させて頂いていますが、とても参考になっています。新しい情報や地域密着型サービス独自の情報を発信して下さい。
- ・いつも初心に立ち返る良い機会となっている。
- ・研修が多く、必要な研修や取り組みたい研修を選べる。
- ・同様な施設との情報共有や意見交換が出来ることは良いと思います。
- ・内容が濃い。
- ・開催にあたり参加者への Zoom 案内など、素早く丁寧にご対応いただき、ありがとうございました。長い時間、休憩なし、それでも時間が足りないような状況だったので、もう少し簡潔になり、グループワークなどの時間をしっかりとれると思います。長時間でしたが、すごく内容はよく、意欲も沸く研修だったので、時間の長さなどは気になりませんでした。
- ・様々な議題の研修があり、感心がもてる。
- ・話が頭に入ってきやすい内容だった。

- ・災害における認知症の方の接し方だけではなく、生活を守る支援も学び、被害想定や住んでいる地域の特性を知る事なども学び、どういった対応をしていくかも学べたので良かったです。
- ・認知症の人に限らず、地震の際は「混乱しやすい」「状況を理解しづらい」「安全行動がとれない」ことが多い。ゆっくり優しく声をかけることや手を取って誘導すること。冷静に基本に戻って対応することが大切であることが一番であると思った。
- ・今回の研修については、とても勉強になりました。事業所でも何度も災害対策シュミレーションをし、課題がでたら、完成に近づけるようにしたいと思う。
- ・河本さんが頑張っておられるから。
- ・色々な研修を開催して頂いている。
- ・異動でグループホームを離れましたが、快く参加させていただいてありがとうございます。
- ・研修内容は充実していると思う。
- ・いろいろな研修ができて良い。技能実習生も参加しやすい研修もして欲しい。
- ・いつもお世話になります。ありがとうございます。
- ・災害が多くなっているので今まで以上に研修会等を行ってください。
- ・令和6年度のStep Up研修は13：30～で良かったが今年度は18：00～で参加が難しくなるので、時間をもう一度考えてほしい。
- ・初めての研修会の参加になったが、とても有意義な時間を過ごすことができた。
- ・色々な内容の研修を取り扱っており、案内もしっかりとされていて、気になる研修は参加しやすいと思います。
- ・研修を色々してくださり、ありがたいです。
- ・資料が現代人受けする雰囲気である。
- ・研修資料がわかりやすくポイントが理解できる。行政や民間、施設など横つなぎの連携が素晴らしい。

③を選んだ方

- ・どのような活動をされているのかイマイチ把握しにくい。
- ・なんとなく。

Q8、現在、自事業所で課題だと感じておられること。

- ・ICT導入。
- ・認知症ケア（グループホームなのに認知症への理解が少なく、画一的なケアになりがち）
職員の出入り、派遣社員の受け入れなどで、理念やこだわりを伝えたり守ったりすることが難しくなっている。
- ・現在は人材も安定しており、今後は一人一人の向上に向け、研修や訓練をしてほしいと思います。BCPについても職員間で共有していきたいです。
- ・人材育成。マンパワー不足。
- ・介護技術の統一化。
- ・地震災害時（朝、昼、夕いつおきるか分からない）のシュミレーションや利用者、職員全員での避難訓練を行い、どれくらいの時間がかかるかなど周知して机上訓練も取り入れ、見直していく事が課題。
- ・環境の変化（人材、社会環境等）に対応が追いついていけないことが課題だと感じています。
- ・人手不足。

- ・職員の育成。
- ・特定のスタッフしか知らない。他のスタッフは知ろうともしない。
- ・BCP が策定義務、研修や訓練が必要なので、作成や実施している状態。
実際の大きな地震に対する危機感はあるが、他人事というスタッフがほとんど。
作成者以外への研修、周知が今後より具体的、現実的にしていく必要がある。
- ・災害時に 2F へどう逃げるか。車いすの人が多く上にあげる自信がない。
- ・人材育成。
- ・事業所が浸水地域にあり、職場での避難ルートの確認はまだ行っていない。
- ・地震が起こった時、認知症の人はパニックを起こしやすい事が多いので、職員は慌てず、落ち着いて冷静になり、優しく声を掛けたり、手を取って誘導することなど心掛けようと思いました。その為には、普段からきちんと冷静な対応で利用者様にかかわっていかうと思いました。
- ・職員不足。
- ・1 から BCP の作成。
- ・スタッフ皆に BCP が伝わっていない。
- ・職員の高齢化で新しいことにとりくみたいところがある。
- ・人材不足、新入職員の定着について。
- ・認知症のある利用者さんの訓練は大変だと思った。
- ・職員の意識改善について
- ・人員不足。
- ・人手不足。
- ・地域とのつながりがほとんど持っていない。
- ・BCP について職員にきちんと周知できていない。
- ・BCP 等にかかわって災害に関する取り組み。
- ・人間関係のもつれ、関係悪化の解決の仕方。
- ・スタッフの高齢化。人員不足で入浴がなかなか。オムツ交換に時間がかかる（尿漏れが多い）。腰痛を訴えるスタッフが多い。書類や会議が多い。オムツパットの進化。
- ・他の業務に時間がかかり見直しが行えない。
- ・見直しを行う。
- ・職員不足。
- ・BCP の見直し。
- ・人手不足が続いており、非常時の対応が難しい。
- ・人材不足。専門的知識低下。
- ・人員不足で満足なケアが行われていないような感じがしています。
- ・人員不足。
- ・職員がいない。
- ・人員体制の不足もあり、一同に会しての周知が行えない。
- ・連絡系のスムーズさと判断がどこで、誰が行うかが不透明な部分がある。
- ・一人一人が発災時（自身の命、大切な方の安全確保）の役割をきちんと把握し、実行できるか、不安。

Q9、現在、当協会が行っている事業内容について、改善のためのご要望があれば

お聞かせください。

- ・緊急時（災害、感染等）における人的、物的フォローの構築など。
- ・Zoom 参加の事業所名は分かるが、会場参加の方についての情報が分からないので、参加一覧があるといいと感じた。後日、「先日参加されてましたよね？」「BCP の作成どうしてます？」とより地域交流や連携、相談ができると思います。
- ・グループワークが少し短かった為、もう少しグループワークの時間を増やして欲しいと思いました。
- ・その時々に必要な研修をしてほしいです。
- ・定期的に色んな研修をしてほしい。
- ・今後とも宜しくお願い致します。

Q10、当協会で実施してほしい活動や取り組みがあればお聞かせください。

- ・BCP 訓練について。ICT 導入の事例など。
- ・ICT の上手な取り入れ方を教えて欲しい。
- ・先進的な取り組みを行っている施設等の視察研修等。
- ・特にありません。今回の研修がとてもよかったので、今後も参加できる研修があれば参加させていただきます。
- ・また研修の機会があれば是非参加させていただきます。